

変わる日本の 「暮らし」と「まち」

まちを一つにつなげ
まちとまちを結ぶ橋と広場が完成



illustration: Shigeyuki Sakata

岩手県
陸前高田市震災復興事業
(2012年・平成24年)

阿部民子

text by Tamiko Abe



「7年半のありがとう。そして、ただいま！ たかたまち。まちびらぎです！」

岩手県陸前高田市の小中高生による元気な声が、真新しいショッピングモール「アバッセたかた」のホールに響き渡った。

去る9月29、30日。陸前高田市の中心部で、「まちびらきまつり」が開かれた。このまちびらきには、バス高速輸送システム（BRT）などが乗り入れる交通広場完成と、新たな橋の完成に伴う高田南幹線道路の開通を記念するもの。

式典では、戸羽太市長が「これまでの歴史や文化を受け継ぎながら、新しい誇りと愛着が芽生える『まち』として発展していきたい」とあいさつ。満員の会場に、祝福の拍手がわき起こった。

待望の施設が次々完成

国の名勝にも指定された「高田松原」を始めとする、豊かな自然に恵まれていた陸前高田市。東日本大震災では、美しい自然を含め、市内の99・5%の世帯が被災、県内でも最大の被害を受けた。わ

震災から立ち直るため、市では中心市街地を以前よりも約10メートルかさ上げし、高台には新たな住宅地を造成。かさ上げに必要な、東京ドーム約10個分にも及ぶ膨大な土の運搬には、全長約3キロメートルものベルトコンベヤーを導入するなど、新しいまちづくりを着々と進めてきた。

昨年4月には、市民が待ち望んでいた大型商業施設「アバッセたかた」がオープン。7月には市立図書館、まちなか広場と続々とまちなかの中心施設が完成。新たにぎわいと活気が生まれ始めている。

29日には、市内中心部を東西につなぐ「館の沖橋」の開通式が行われた。高田第一中学校吹奏楽部の演奏に合わせ、「たてのおかし開通おめでとう」の文字が一つずつ書かれた紙を持った竹駒保育園の園児たちが橋を渡り終えると、参加者の間から「万歳！」の声があがった。

見学に訪れていた保健師の日高橋子さんは、震災直後の4月から1年間、名古屋市の派遣職員として支援に来ていたという。「ずっと応援してきたけど、やっとカタ

チになりつつあって、本当によかった」と感慨無量の表情で話してくれた。

「現在、中心部での宅地の引き渡しが進み、個店も次々と建っています。このまちびらきで、復興がここまで進んでいるというのを、皆さんにお伝えできれば」と陸前高田市復興局市街地整備課 区画整理係長の佐藤賢さんは話す。

市と一体になって、かさ上げを始めとする復興市街地整備事業の業務全般などを担ってきたUR陸前高田復興支援事務所長の草場優昭も安堵の表情で語る。

「今日の式典に間に合うよう、現場では工程が厳しいなか、整備を完了することができました。作業にあたった方には、本当にお疲れ様でしたと言いたいですね。橋の開通に合わせて幹線道路がつながり、東側の人が中心地に来られるようになって、まちづくりも非常に勢いづくと思います」と笑顔で語る。

まちびらきと同時に、宅地の引き渡しも続々と行われている。姪の佐々木友子さんに付き添われて、新しい土地を見に訪れていた



待ち望んでいた「まちびらき」に子どもたちや職員、関係者みんなが喜びの笑顔を見せる。

松野昭子さんは、1年後を目途に新居を建てる予定とか。「新しい家が楽しみです」と笑顔で話してくれた。

次代の担い手も活躍中

新しい陸前高田には、新たな未来の担い手も次々と育っている。そのなかの一人が、「NPO法人陸前高田まちづくり協働センター」職員、種坂奈保子さんだ。震災後に愛知県から移住し、現在は世界的建築家、伊東豊雄氏設計のコミュニティ施設「ほんまるの家」を中心に活動している。

「陸前高田で何かやりたいと思うた人の活動をサポートしながら、コミュニティづくりやまちを活性化するお手伝いをしています。これまでも若いパティシエを招いてのお菓子作りや、魚屋さんを講師にした魚をさばく会など、さまざまなイベントを行ってきました。若い人がやりたいことを実現できるまちになるよう、周辺のお店や市町村もまきこんで、盛り上げていきたい」と話す。

そして、これからの頼もしい主役となるのが、陸前高田に生まれ

ずかに1本残った松の木は、「奇跡の一本松」のモニュメントとな

って、いまま陸前高田のまちを見守っている。

育つ子どもたちだ。「まちびらきまつり」でダンスや歌、子どもたちへのワークショップを行っていた「FACE」は、中学生による地域貢献グループだ。メンバーの高田第一中学校3年生の松田由希菜さんは「自分たちも地域の人も楽しくなる活動を目指して、さまざまなボランティア活動を行っています。いままでもイベントへの参加やまちの良さを知るウォークラリーなど、自分たちで考えて活動してきました。いままでも支援助けてくださった方への恩返し、いただいた恩をほかの誰かに送る、恩送りができる」とキラキラした瞳で話してくれた。

まちびらき会場を彩っていた小學生による「みらいの陸前高田のまち」の絵。そこには描かれているのは美しい松林や自然、活気あふれるまち、そして笑顔の人々だ。人々の、そして子どもたちの希望をのせて、陸前高田のまちは歩みを進めている。

街に、ルネッサンス



一日も早い東北の復興へ 全力で取り組んでいます

企画制作 新潮社